

《決算関係案件》

認第1号 令和6年度 南和広域医療企業団 病院事業会計決算について 【議案資料 1】

《予算関係案件》

議第5号 令和7年度 南和広域医療企業団 病院事業会計補正予算（第1号）について 【議案資料 2】

《条例改正関係案件》

議第6号 南和広域医療企業団 職員の給与の種類及び基準に関する条例の一部を改正する条例について 【議案資料 3】

議第7号 南和広域医療企業団 企業長等の給与及び旅費に関する条例の一部を改正する条例について 【議案資料 4】

《報告案件》

報第1号 令和6年度 南和広域医療企業団 病院事業会計資金不足比率の報告について 【議案資料 5】

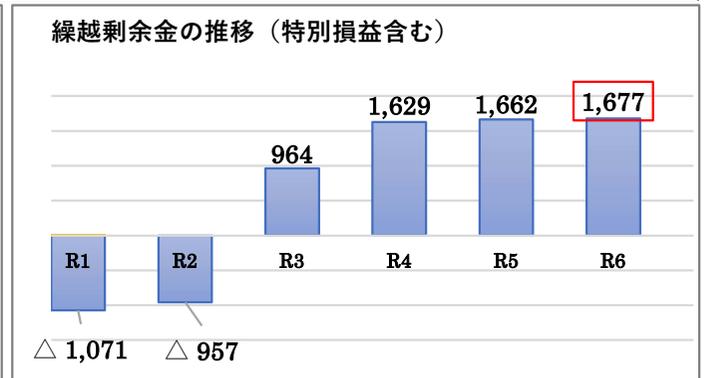
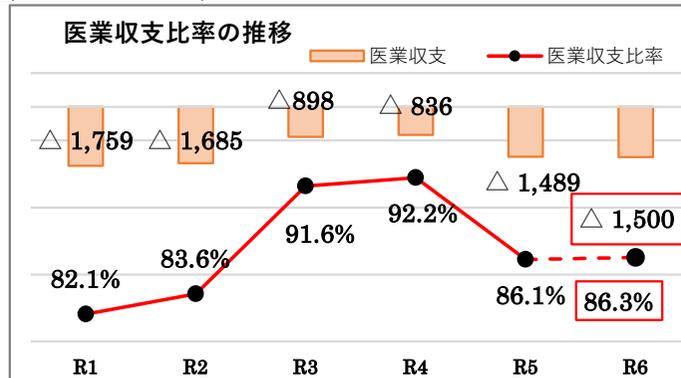
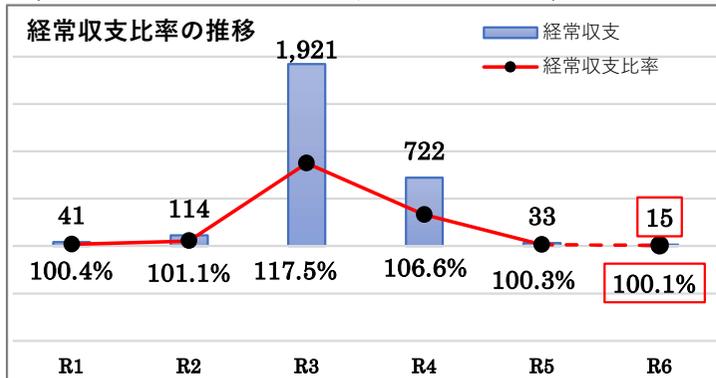
- 前年に比べ経常利益は減少したが、**6年連続の黒字決算**となった。➡ **繰越剰余金は1, 677百万円に増加**
- 収支悪化（経常利益減少）は専ら**外的要因**によるもの

収益：R6診療報酬改定	0.88%	+ 74百万円
費用：R5人勧改定率（R6実施）	0.96%	▲ 51百万円
R6物価変動率	2.70%	▲ 131百万円
差引		▲ 108百万円

- 各般の経営努力で収入増を図るとともに、**費用の増加を収益の増加と同水準に止め、黒字を維持**
- 新型コロナの影響を脱し平常化（患者数、病床稼働率等）
- 救急応需、在宅医療、へき地医療など**地域貢献をさらに充実**

(単位：百万円)

	R6	R5	前年比	主な要因
<b>医業収支</b>	▲ 1,500	▲ 1,489	▲ 11	
<b>医業収益</b>	9,433	9,235	198	
入院収益	5,839	5,489	350	患者数の増(+6.4% (+8,406人)) 139,954人 手術収入の増(80百万円)
外来収益	2,925	2,942	▲ 17	患者数の増(+1.7% (+3,356人)) 201,977人 コロナワクチン接種数の減(▲53百万円)
その他医業収益	669	804	▲ 135	コロナ関連補助金(空床確保)の減(▲105百万円)
<b>医業費用</b>	10,933	10,724	209	給与費の増(119百万円) 光熱費の増(15百万円) 委託料の増(26百万円) 修繕費の増(28百万円)
<b>医業外収支</b>	1,515	1,522	▲ 7	
<b>医業外収益</b>	1,722	1,723	▲ 1	
<b>医業外費用</b>	207	201	6	
<b>経常利益</b>	15	33	▲ 18	
特別損失	0	0	0	
<b>当年度純利益</b>	15	33	▲ 18	



# 決算の概要 (病院別)

## 南奈良総合医療センター・吉野病院・五條病院

南奈良総合医療センター



232床

吉野病院



87床

五條病院

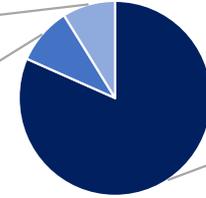


85床

### 【構成割合】

五條病院, 8.9%

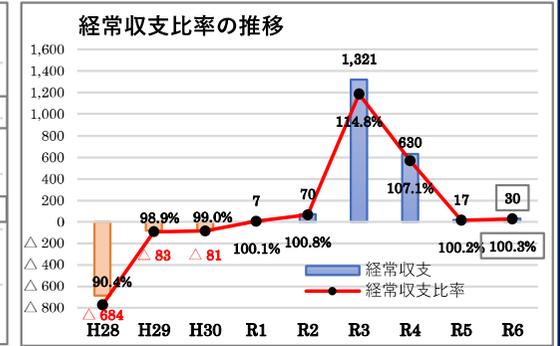
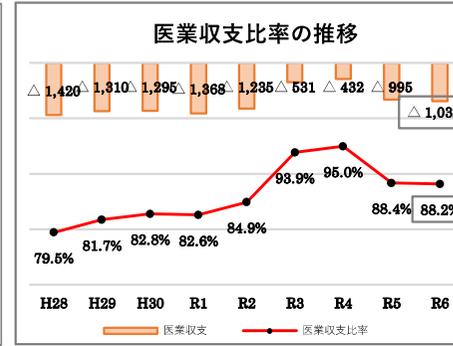
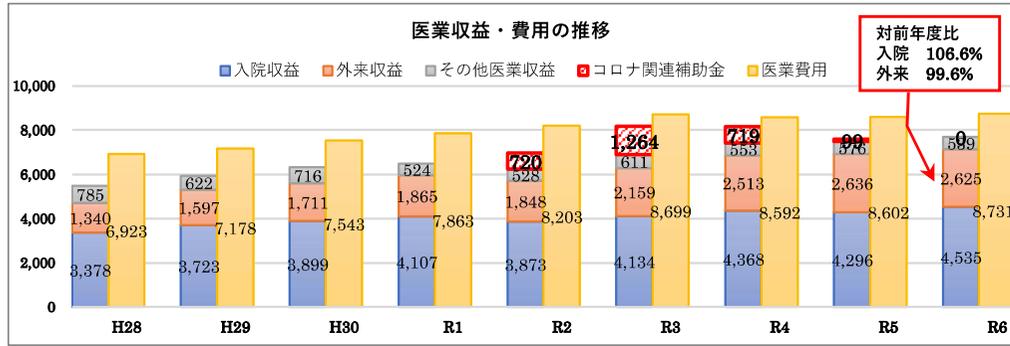
吉野病院, 9.5%



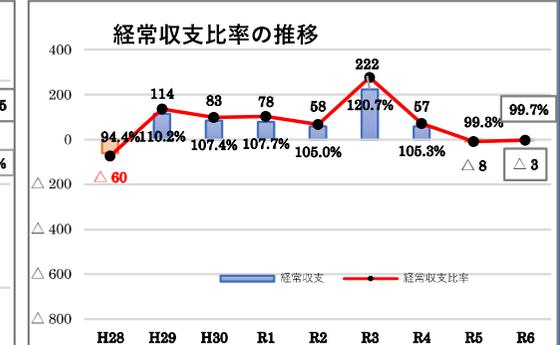
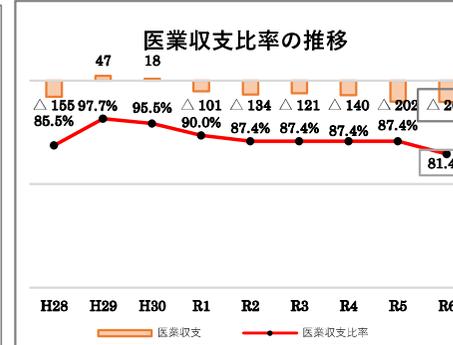
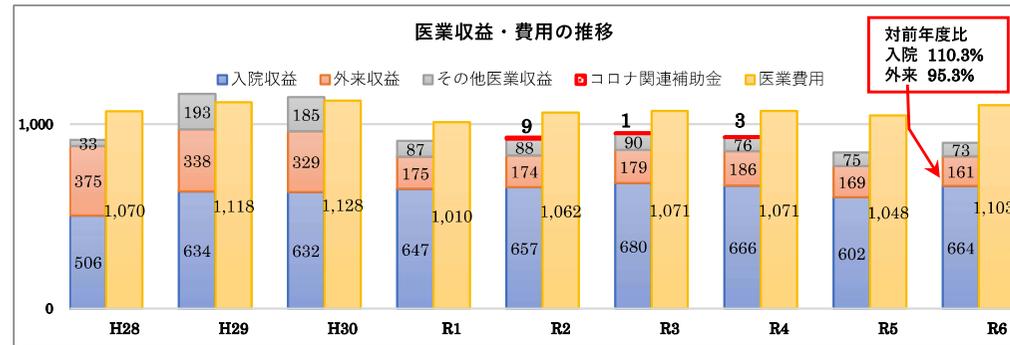
南奈良総合医療センター, 81.7%

※ R6医業収益ベース

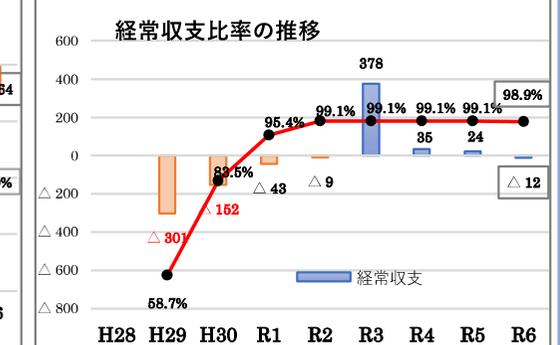
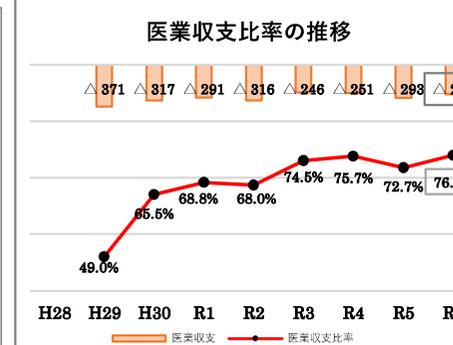
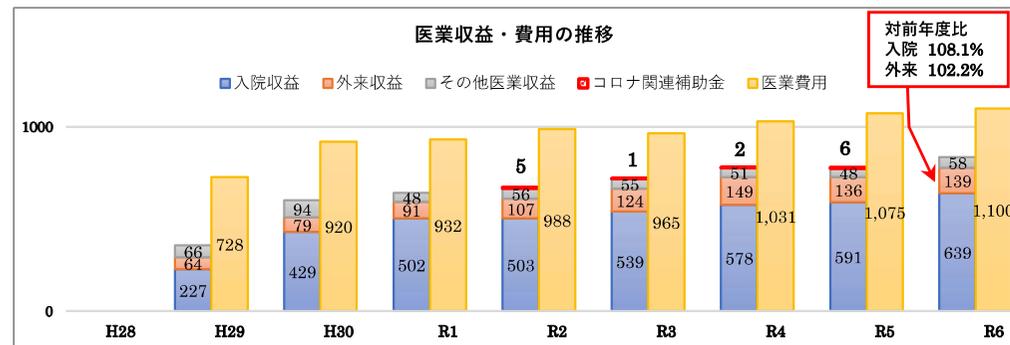
南奈良総合医療センター



吉野病院



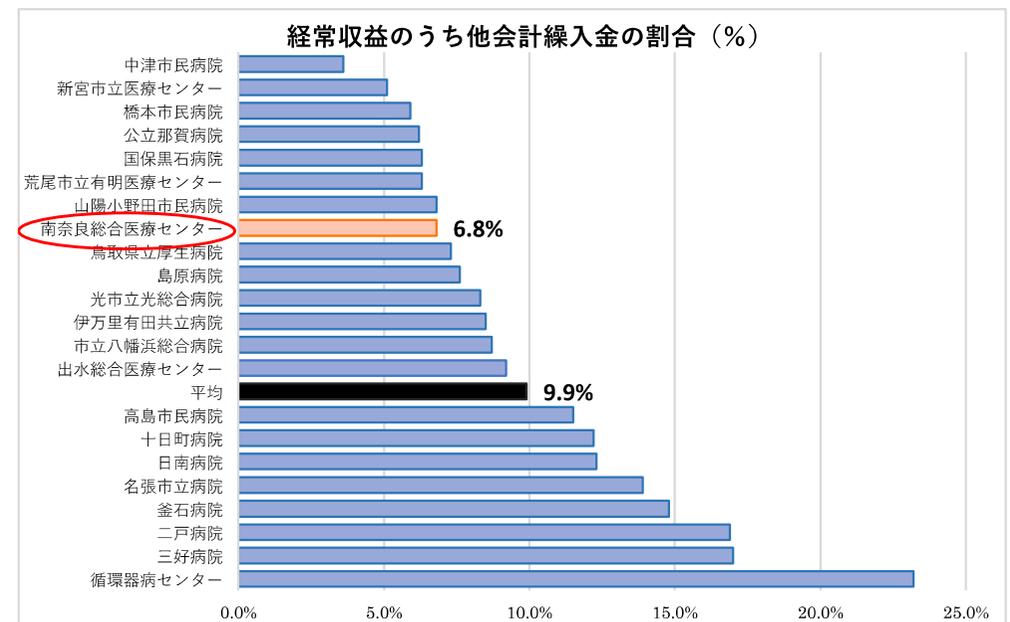
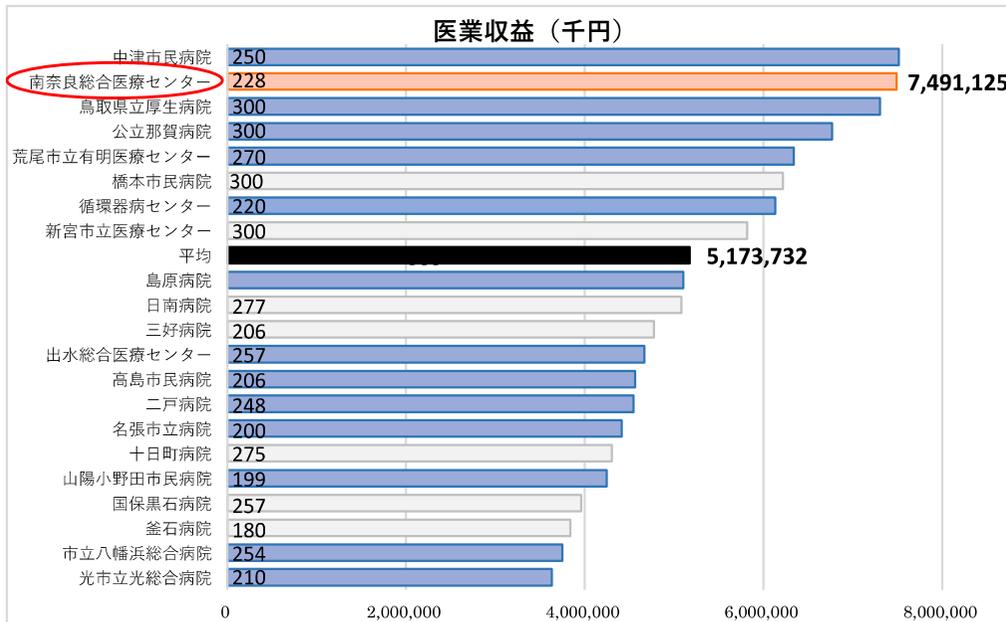
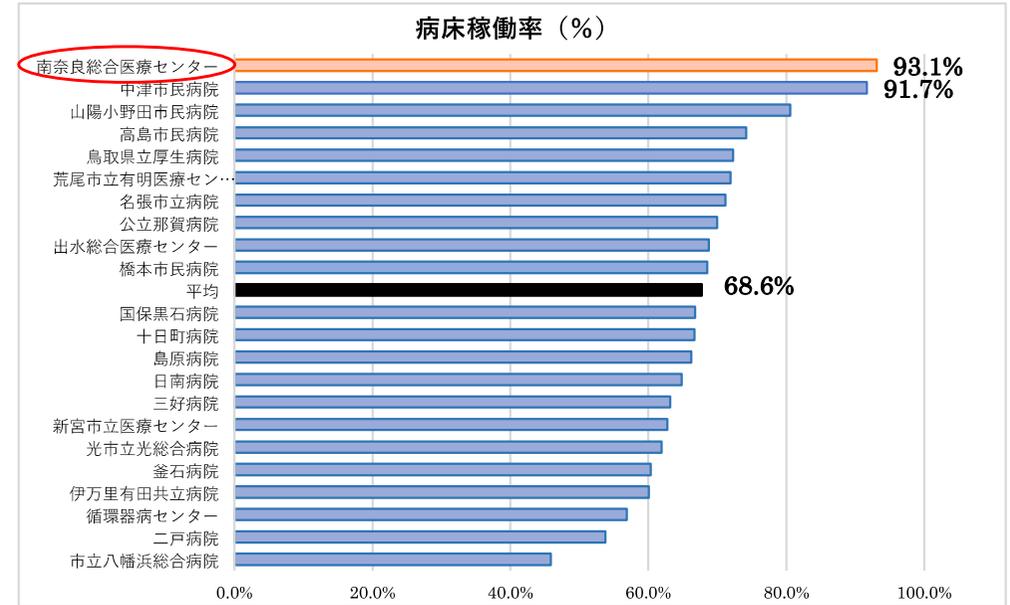
五條病院



類似病院との比較 不採算地区中核病院※（200程度～300床の全国22公立病院）～総務省「令和5年度 地方公営企業年鑑（病院事業）」より

病床稼働率が第1位であり、300床規模や7：1看護基準の病院と比べても遜色のない医業収益を確保しています。構成団体からの繰入金も低位にあります。

病床数	病院名	都道府県	事業開始年度	一般	看護の基準	職員数
1	公立那賀病院	和歌山県	1950	300	7:1	489
1	鳥取県立厚生病院	鳥取県	1963	300	7:1	549
1	橋本市民病院	和歌山県	1963	300	10:1	518
4	新宮市立医療センター	和歌山県	1947	281	10:1	366
5	県立日南病院	宮崎県	1948	277	7:1	496
6	新潟県立十日町病院	新潟県	1949	275	7:1	383
7	荒尾市立有明医療センター	熊本県	1949	270	7:1	637
8	出水総合医療センター	鹿児島県	1925	257	10:1	485
8	国保黒石病院	青森県	1944	257	7:1	333
10	市立八幡浜総合病院	愛媛県	1928	254	10:1	360
11	長崎県島原病院	長崎県	1966	250	7:1	440
11	中津市民病院	大分県	2000	250	7:1	539
13	岩手県立二戸病院	岩手県	1950	248	10:1	452
14	南奈良総合医療センター	奈良県	2016	228	10:1	498
15	千葉県循環器病センター	千葉県	1955	220	7:1	467
16	光市立光総合病院	山口県	2019	210	7:1	383
17	徳島県立三好病院	徳島県	1956	206	7:1	345
18	高島市民病院	滋賀県	1981	206	10:1	429
18	伊万里有田共立病院	佐賀県	2012	202	7:1	324
20	名張市立病院	三重県	1994	200	7:1	434
21	山陽小野田市民病院	山口県	1950	199	10:1	350
22	岩手県立釜石病院	岩手県	1950	180	10:1	353



灰色：10対1看護基準

※半径5キロ以内の人口が10万人未満の場所に立地している病院

- **南奈良総合医療センターのDPC機能評価係数IIは、県内類似20病院中、第1位**
- **全国1501病院中、48位**

機能評価係数IIとは、DPC採用病院の経営効率や地域医療への貢献等を評価する指標であり、診療報酬による加算があります。

- ① **効率性係数**：各医療機関の在院日数短縮への努力を行ってれば高く評価されます。
- ② **複雑性係数**：重症度が高い患者がより多く入院してれば高く評価されます。
- ③ **カバー率係数**：様々な疾患に対応してれば高く評価されます。
- ④ **地域医療係数**：体制評価指数（災害拠点病院、DMAT、コロナ対策等）に加え地域医療への貢献度が高ければ高く評価されます。
- ※ **救急医療係数**：救急医療（緊急入院）が多く入院してれば高く評価されます。（R6年度より機能評価係数の外数となりました）

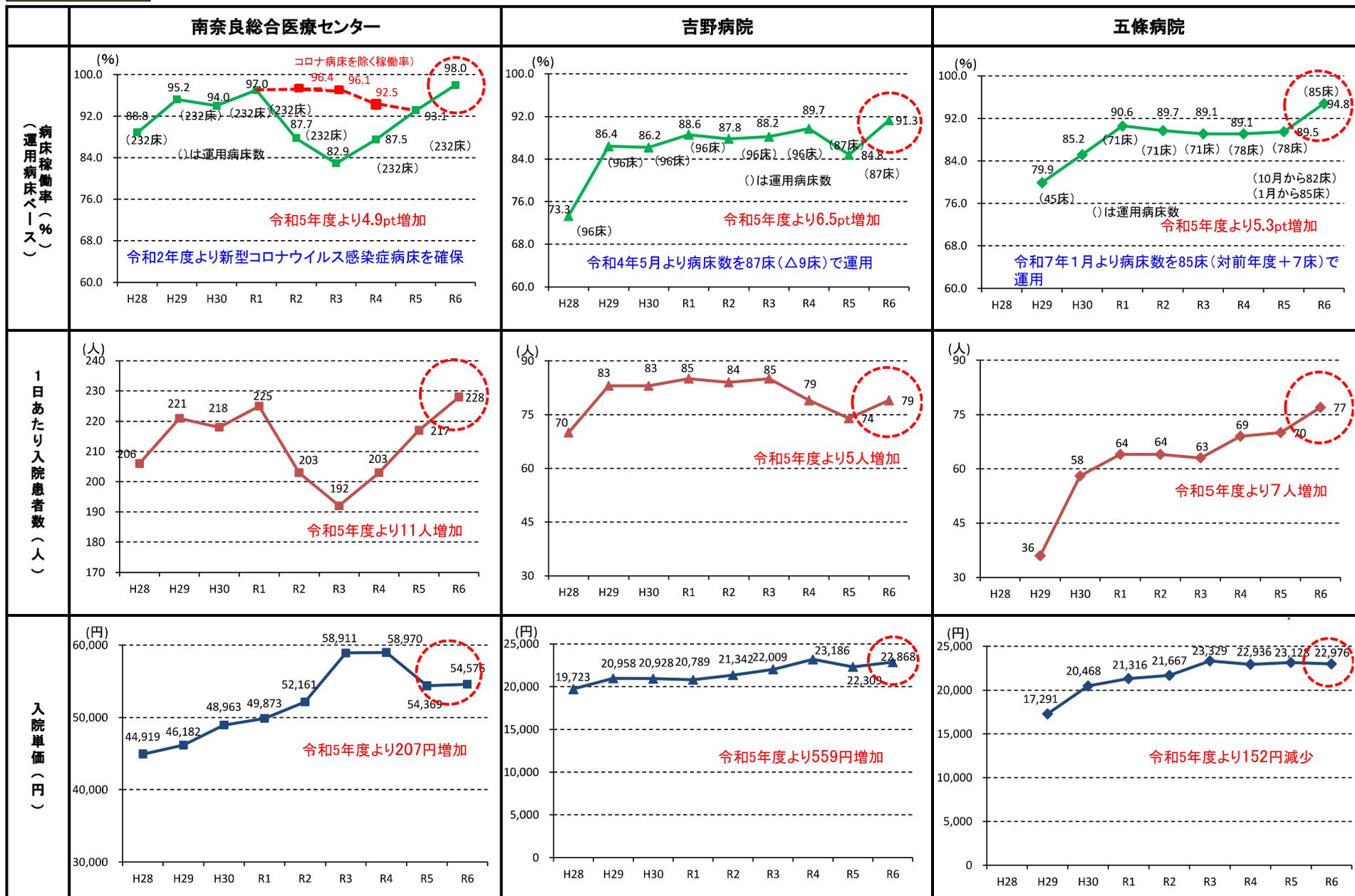
DPC制度とは、急性期入院医療を対象とする診断群分類に基づく一日当たりの包括払い制度のことです。

- 出来高による過度の請求を防ぎ、診療の標準化・透明化、さらに診療の質を向上させるために2003年に導入されました。
- DPC病院は、以下の3つにカテゴライズされます。
  - ・ 大学病院群（全国82病院）：奈良県立医科大学附属病院
  - ・ 特定病院群（全国181病院）：奈良県総合医療センター、天理よろづ相談所病院
  - ・ 標準病院群（全国1501病院）：当院と他19病院

	H31 係数	R2 係数	R3 係数	R4 係数	R5 係数	R6 係数	R7 係数	県内順位	病院名	係数
県内順位	1位/ 20病院	1	<b>南奈良総合医療センター</b>	<b>0.1227</b>						
全国順位	41位/ 1493病院	42位/ 1519病院	42位/ 1519病院	33位/ 1501病院	27位/ 1498病院	24位/ 1526病院	48位/ 1501病院	2	市立奈良病院	0.1042
機能評価係数II 計	0.09163	0.08829	0.08829	0.10050	0.10816	0.1240	0.1227 (1位/48位)	3	奈良県西和医療センター	0.0981
○保険診療係数	0.01605	0.01575	0.01575	0.01764	0.01762	-	-	4	香芝旭ヶ丘病院	0.0874
①効率性係数	0.02221	0.01907	0.01907	0.02309	0.02209	0.03192	0.03214 (4位/239位)	5	西奈良中央病院	0.0836
②複雑性係数	0.01961	0.01955	0.01955	0.01884	0.02266	0.03354	0.03423 (4位/269位)	6	済生会御所病院	0.0758
③カバー率係数	0.01173	0.01206	0.01206	0.01322	0.01340	0.01580	0.01630 (4位/527位)	7	近畿大学奈良病院	0.0729
④地域医療係数	0.03808	0.03761	0.03761	0.04535	0.05001	0.04273	0.04002 (1位/99位)	8	高井病院	0.0725
※救急医療係数	0.02484	0.02603	0.02603	0.02952	0.02797	0.03460	0.03280 (3位/203位)	9	済生会中和病院	0.0714
								10	平成記念病院	0.0699
								11	大和高田市立病院	0.0688
								12	田北病院	0.0678
								13	白庭病院	0.0650
								14	生駒市立病院	0.0635
								15	宇陀市立病院	0.0607
								16	高の原中央病院	0.0523
								17	済生会奈良病院	0.0437
								18	西ノ京病院	0.0393
								19	国保中央病院	0.0336
								20	大和郡山病院	0.0300

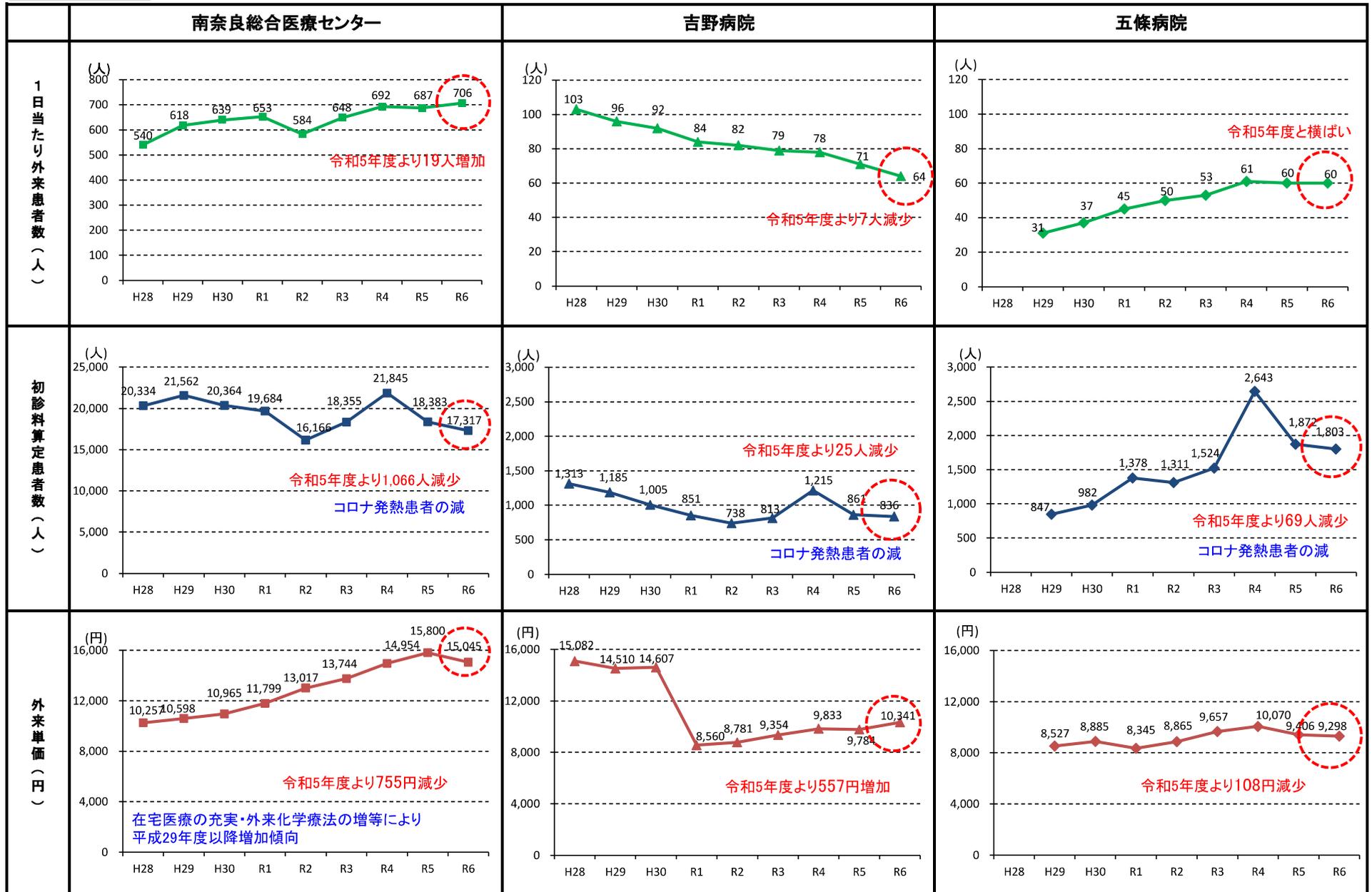
# 入院

## 各病院における診療指標の推移①(入院関係指標)



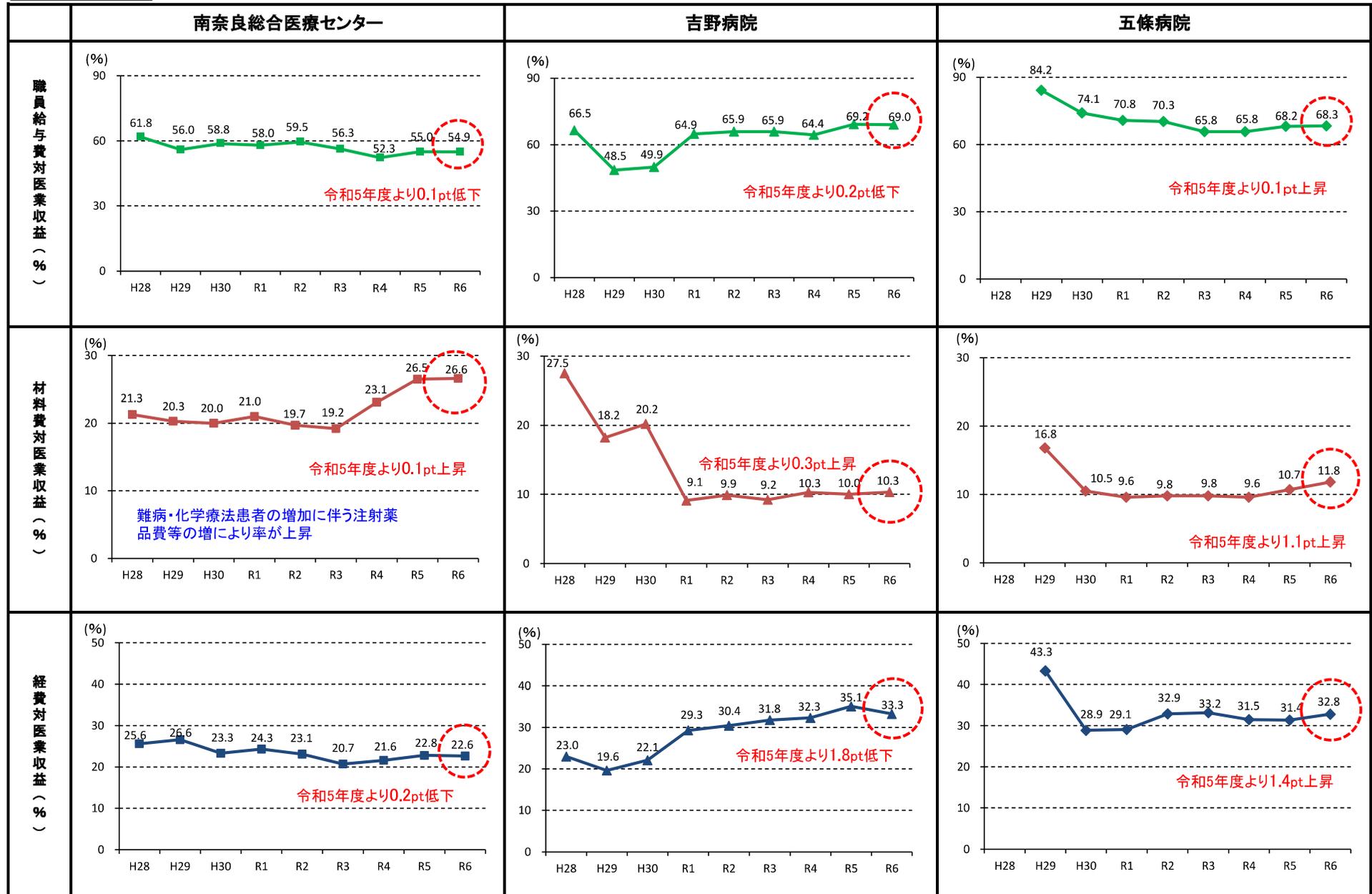
# 外来

## 各病院における診療指標の推移②(外来関係指標)



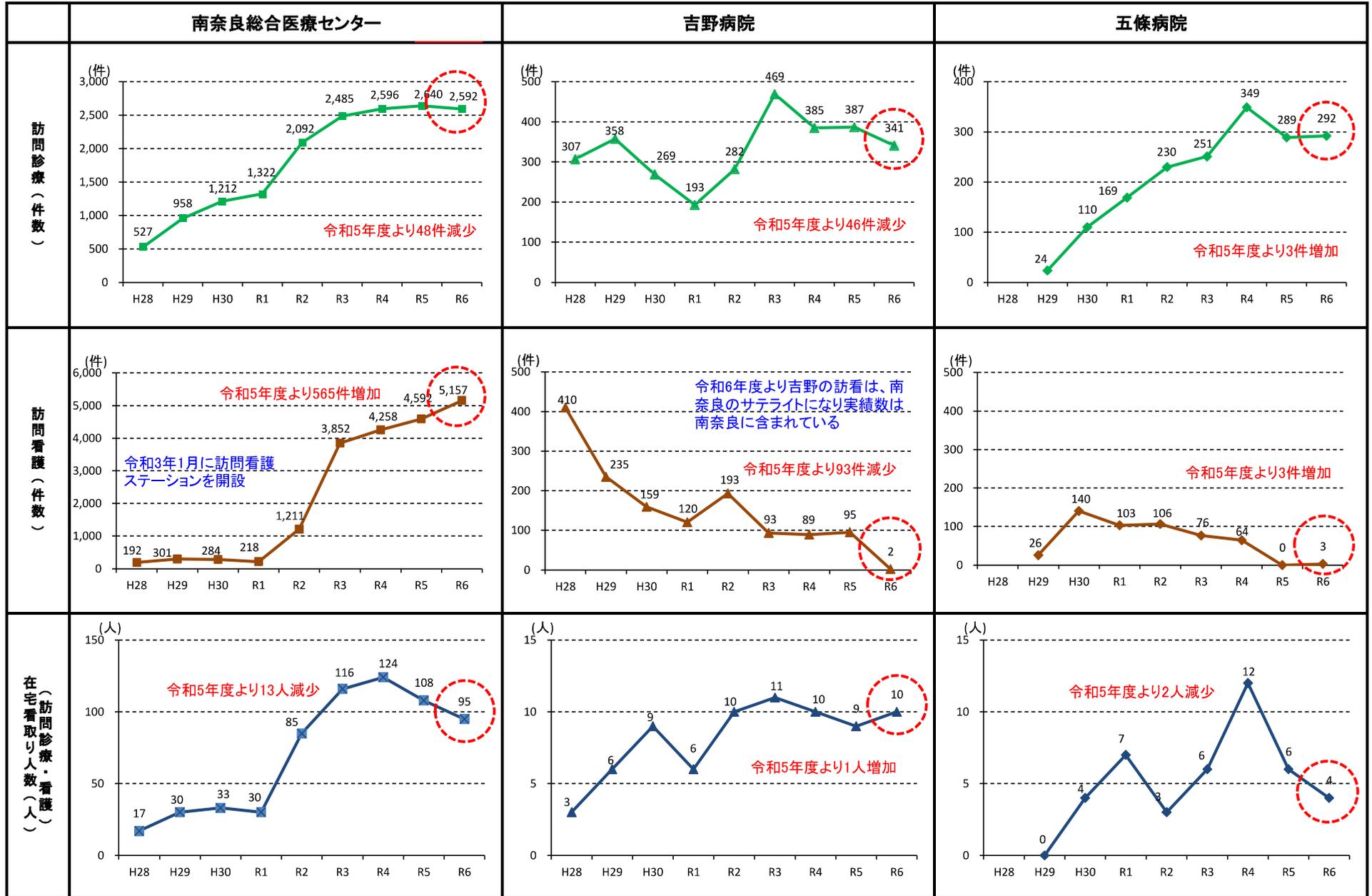
# 費用

## 各病院における診療指標の推移③(費用関係指標)



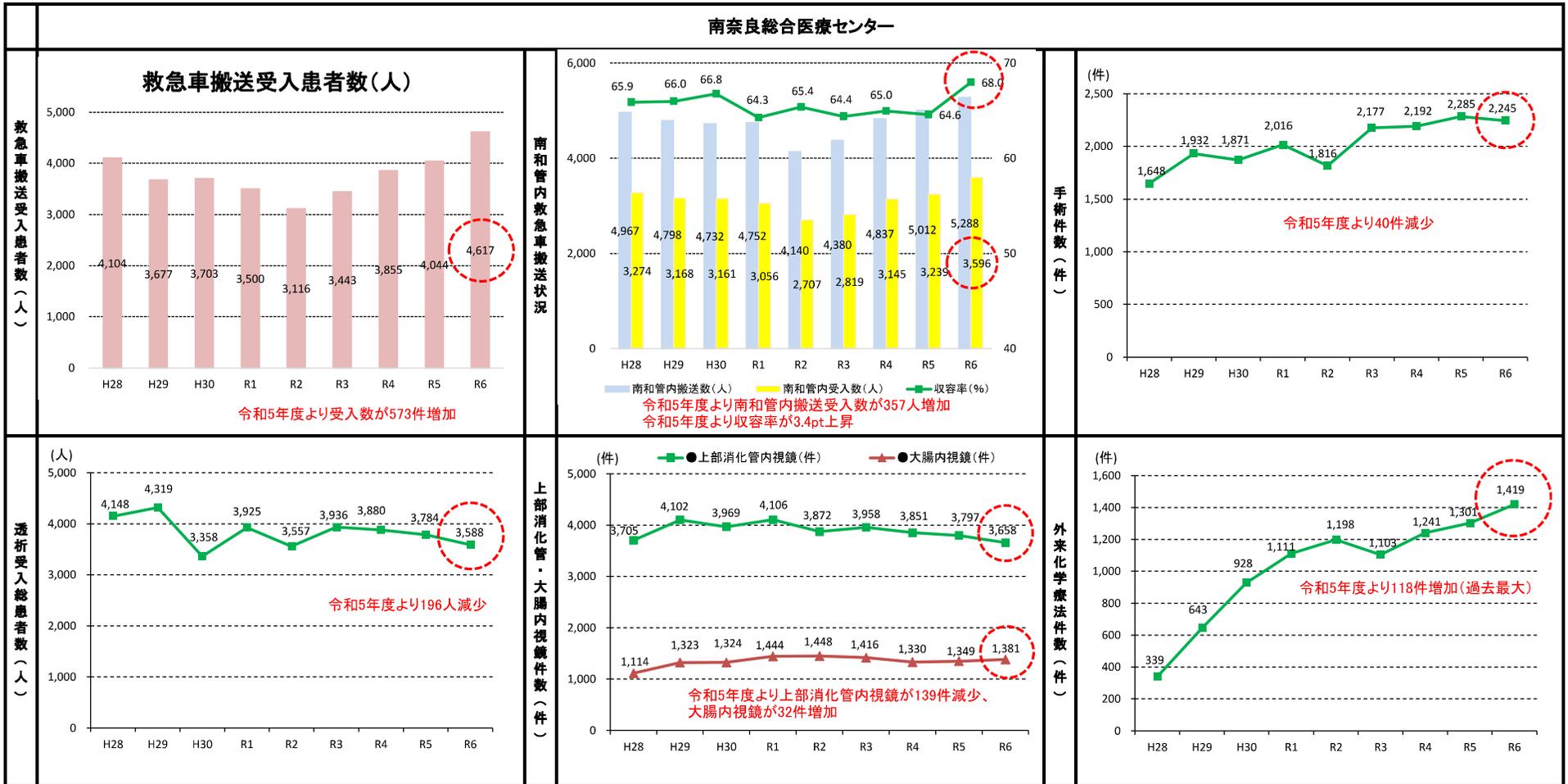
# その他

## 各病院における診療指標の推移④(その他指標)



その他

各病院における診療指標の推移⑤(その他指標)



# 令和7年度（4～8月）診療状況について（入院）

南奈良総合医療センター・吉野病院・五條病院

- 南奈良GMCの入院患者数は、コロナ前の水準に戻りつつある
- 南奈良GMCでは、コロナ患者の特例加算の廃止およびコロナ患者の減少に伴い、コロナ期より診療単価が下がっているが、コロナ前の水準より上回っている

## 参 考

### 地域別患者数の状況

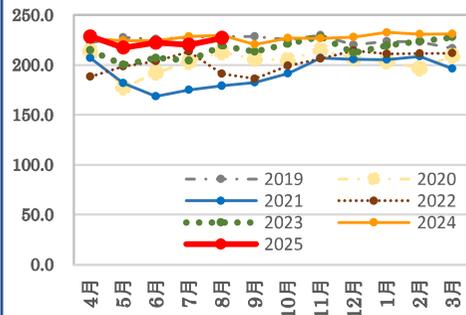
- 患者のうち83～94%は南和地域の住民

### 南和地域市町村別患者数

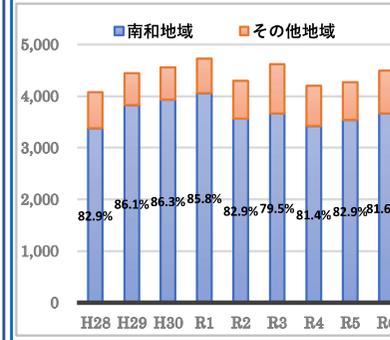
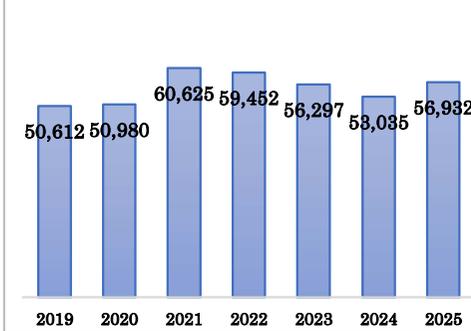
- 南奈良GMCでは、約83%（9年平均）
- 吉野病院では、約94%（同上）
- 五條病院では、約91%（8年平均）※ 実患者数

南奈良総合医療センター

入院患者数

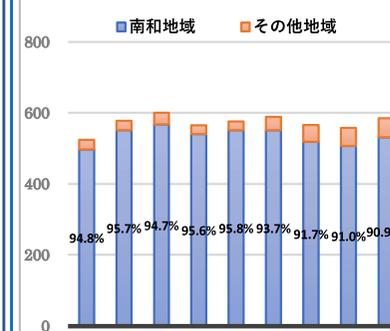
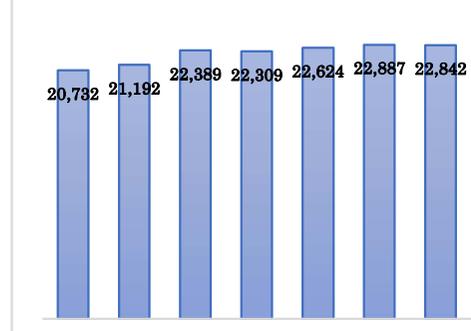
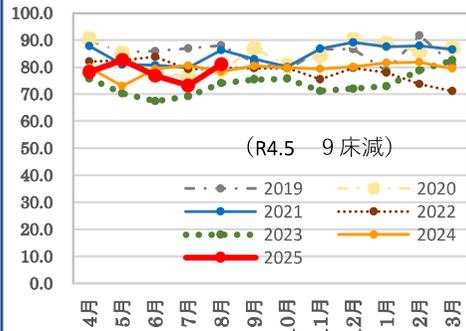


診療単価



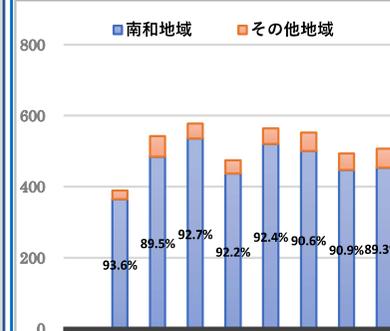
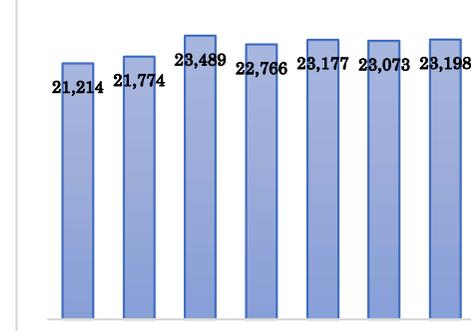
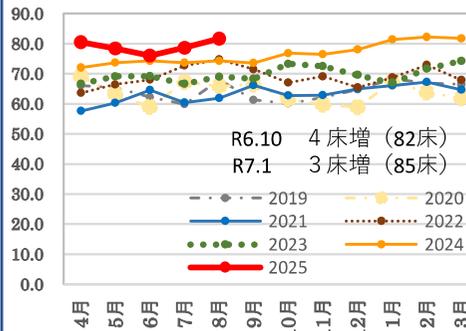
(入院)	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	H28-R6
五條市	1,476	1,640	1,675	1,712	1,536	1,598	1,538	1,550	1,671	
吉野町	380	458	465	477	423	386	400	410	378	
大淀町	839	949	947	999	889	941	830	902	876	
下市町	339	319	352	360	312	329	259	286	288	
黒滝村	46	56	45	50	40	35	36	34	47	
天川村	61	85	93	82	72	80	81	72	78	
野迫川村	7	24	20	29	15	26	18	17	23	
十津川村	106	140	144	163	135	135	125	136	135	
下北山村	10	15	30	35	26	24	26	23	24	
上北山村	21	24	36	34	30	30	18	18	35	
川上村	79	98	96	91	68	63	68	78	88	
東吉野村	15	23	31	22	19	23	20	20	21	

吉野病院



(入院)	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	H28-R6
五條市	90	42	17	19	30	35	30	39	34	
吉野町	194	249	247	212	215	193	194	187	206	
大淀町	101	132	132	157	155	173	170	145	155	
下市町	49	59	84	74	77	70	45	63	59	
黒滝村	4	3	2	7	7	12	11	13	16	
天川村	8	12	16	13	18	17	15	14	13	
野迫川村	2	0	1	0	0	1	0	0	1	
十津川村	7	8	1	3	9	3	4	10	10	
下北山村	2	2	4	5	4	4	4	2	7	
上北山村	6	8	9	11	5	6	6	4	5	
川上村	27	31	47	34	28	32	36	23	21	
東吉野村	7	6	8	5	4	6	4	7	5	

五條病院



(入院)	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	H29-R6
五條市	0	285	396	428	343	421	403	364	376	
吉野町	0	2	4	3	5	5	2	5	4	
大淀町	0	24	31	37	33	31	37	24	18	
下市町	0	9	10	15	9	8	12	5	12	
黒滝村	0	2	4	4	1	0	1	2	2	
天川村	0	7	4	7	2	0	4	3	5	
野迫川村	0	5	5	8	7	10	5	6	2	
十津川村	0	26	30	33	34	44	32	35	30	
下北山村	0	2	1	1	3	1	1	0	0	
上北山村	0	0	0	0	0	0	3	2	0	
川上村	0	2	0	0	0	1	1	2	3	
東吉野村	0	0	0	0	0	0	0	0	1	

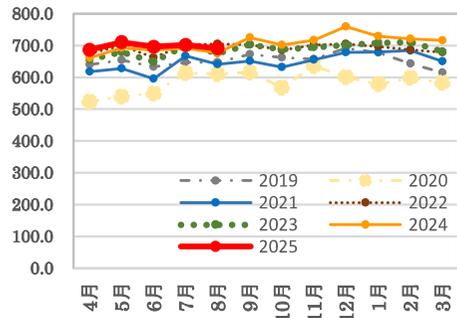
# 令和7年度（4～8月）診療状況について（外来）

南奈良総合医療センター・吉野病院・五條病院

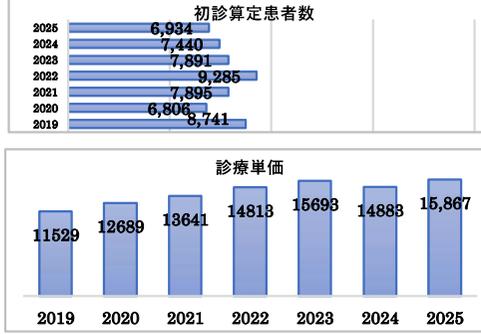
- 南奈良GMCの外来患者数は、コロナ発熱外来患者が減ったが総数では過去最多となっている
- 南奈良GMCの診療単価は、高額医薬品（化学療法、難病）の増、在宅関係の強化により単価が上昇傾向にある

南奈良総合医療センター

外来患者数



診療単価



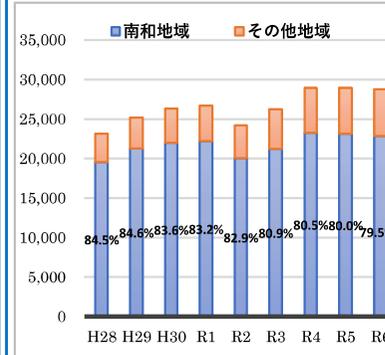
## 参考

地域別患者数の状況

●患者のうち82～95%は南和地域の住民

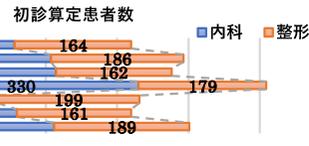
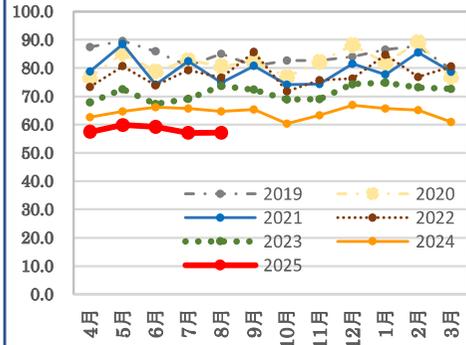
南和地域市町村別患者数

- 南奈良GMCでは、約82%（9年平均）
- 吉野病院では、約95%（同上）
- 五條病院では、約94%（8年平均） ※ 実患者数

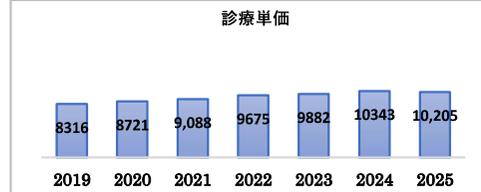


(外来)	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	H28-R6
五條市	7804	8602	8861	8,938	8,151	8878	9755	9885	9714	
吉野町	1928	2346	2410	2,456	2,149	2207	2475	2367	2446	
大淀町	6158	6574	6771	6,796	6,189	6560	7232	6952	6727	
下市町	2177	2092	2109	2,126	1,897	1927	2027	1986	1961	
黒滝村	127	218	240	238	196	205	238	234	250	
天川村	355	377	392	389	354	347	372	387	398	
野迫川村	38	59	60	68	68	79	68	89	85	
十津川村	314	403	442	457	418	397	416	604	531	
下北山村	55	36	76	101	90	76	79	102	110	
上北山村	58	95	114	122	120	116	141	129	141	
川上村	486	415	426	412	333	337	382	405	399	
東吉野村	56	83	103	105	93	104	108	125	114	

吉野病院

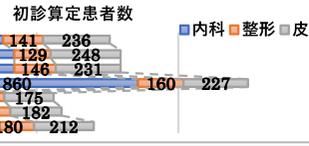
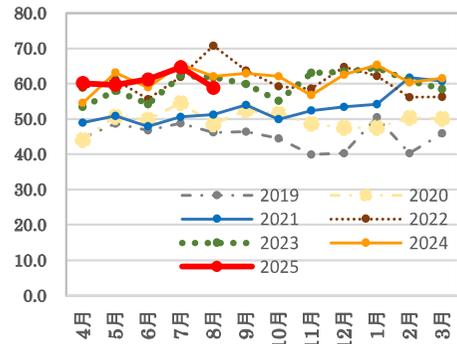


診療単価

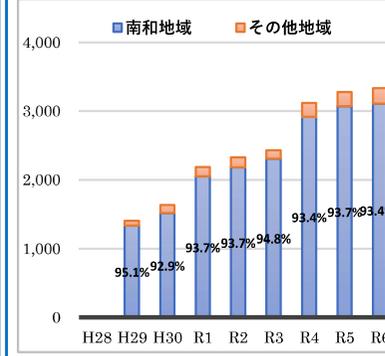
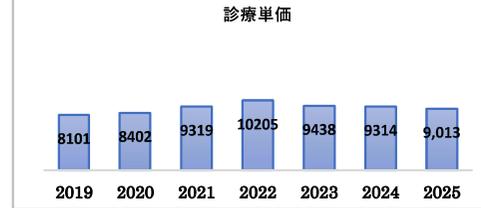


(外来)	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	H28-R6
五條市	48	53	28	34	33	25	32	56	44	
吉野町	205	2103	2039	1,855	1,877	1837	1833	1748	1658	
大淀町	424	468	488	457	438	418	456	459	454	
下市町	89	94	123	126	105	83	102	127	104	
黒滝村	3	3	3	8	11	7	8	12	18	
天川村	14	20	20	20	18	14	12	19	18	
野迫川村	0	0	1	0	0	0	0	0	0	
十津川村	0	2	1	3	4	1	2	9	9	
下北山村	2	5	4	5	3	3	3	3	6	
上北山村	8	10	10	12	8	6	6	7	7	
川上村	194	196	184	162	138	125	136	180	131	
東吉野村	23	17	19	20	21	17	29	19	20	
その他	140	149	131	113	116	136	138	162	169	

五條病院



診療単価



(外来)	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R5	H28-R6
五條市	0	1269	1444	1,901	2045	2194	2785	2865	2900	
吉野町	0	7	7	16	12	12	11	21	26	
大淀町	0	16	18	42	45	41	51	71	61	
下市町	0	8	9	19	18	14	13	20	28	
黒滝村	0	1	5	6	4	0	2	2	3	
天川村	0	6	5	11	8	8	11	9	11	
野迫川村	0	2	3	14	4	3	5	12	9	
十津川村	0	24	23	38	38	30	31	62	67	
下北山村	0	0	0	0	2	0	1	1	0	
上北山村	0	0	0	0	1	1	1	3	1	
川上村	0	1	0	0	0	1	2	4	4	
東吉野村	0	0	0	0	0	1	1	0	1	
その他	0	68	116	137	147	126	205	207	221	

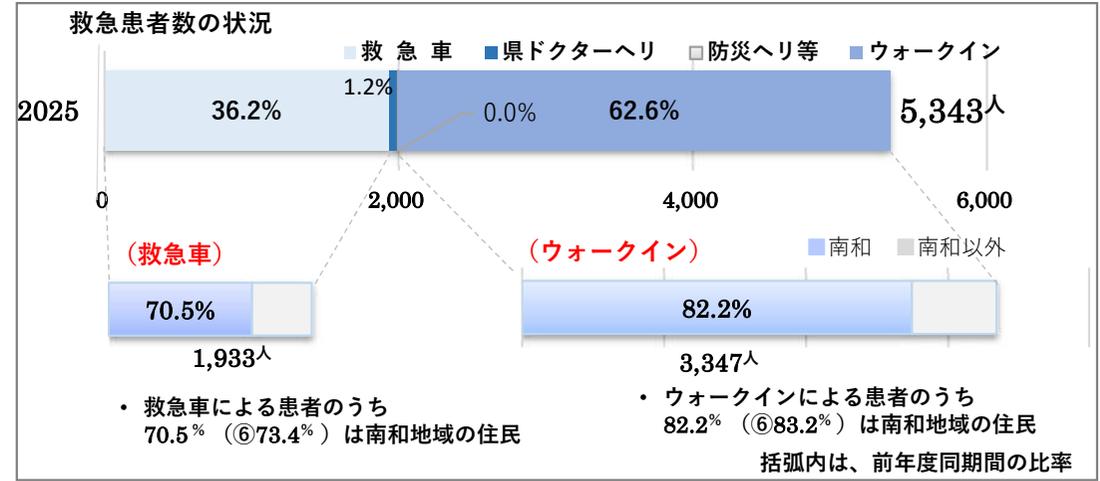
# 令和7年度（4月～8月）救急外来の状況について

南奈良総合医療センター

- 救急外来受入れ人数 **5,343件**（対前年度▲552人）  
救急車（▲11件）と減少し、県ドクターヘリ（+19件）は増加
- 南和地域の住民に、**4,156人**（全体の**77.8%**）利用していただいている ⑥**4,701人**（全体の**79.7%**）  
救急車**70.5%**、ウォークイン**82.2%**



**5,343人**  
（対前年度 ▲552人(▲9.4%)）  
が救急外来へ



● 救急外来の状況（4～8月実績）※患者住所地

救急外来の状況	2024			2025			増減		
	南和	南和以外	計	南和	南和以外	計	南和	南和以外	計
救急車	1,424	520	1,944 (33.0%)	<b>1,363</b>	570	1,933 (36.2%)	▲61 (▲4.3%)	50 (+9.6%)	▲11 (▲0.6%)
県ドクターヘリ	27	16	43 (0.7%)	<b>43</b>	19	62 (1.2%)	16 (+59.3%)	3 (+18.8%)	19 (+44.2%)
防災ヘリ等	0	3	3 (0.1%)	<b>0</b>	1	1 (0.0%)	0 (-)	▲2 (▲66.7%)	▲2 (▲66.7%)
ウォークイン	3,250	655	3,905 (66.2%)	<b>2,750</b>	597	3,347 (62.6%)	▲500 (▲15.4%)	▲58 (▲8.9%)	▲558 (▲14.3%)
合計	4,701	1,194	5,895 (100.0%)	<b>4,156</b>	1,187	<b>5,343</b> (100.0%)	▲545 (▲11.6%)	▲7 (▲0.6%)	▲552 (▲9.4%)
1日平均	30.7	7.8	38.5	<b>27.2</b>	7.8	34.9	▲3.6	0.0	▲3.6

（単位：人）



● 県ドクターヘリ（43件）の内訳（患者住所地）

市町村名	件数	市町村名	件数
五條市	10	野迫川村	0
吉野町	8	十津川村	12
大淀町	6	下北山村	4
下市町	1	上北山村	0
黒滝村	0	川上村	0
天川村	0	東吉野村	2

【参考】県ドクターヘリ出動・搬送状況（4～8月実績）

出動件数	累計			搬送件数	累計		
	2024	2025	増減		2024	2025	増減
南和保健医療圏	68	96	+28	南奈良総合医療センター	43	62	+19
奈良保健医療圏	9	6	-3	対出動件数（キャンセル除く）	29.1%	35.4%	+6.3pt
西和保健医療圏	7	15	+8	南和地域出動受入件数	37	62	+6
中和保健医療圏	18	13	-5	奈良県立医科大学附属病院	60	66	+6
東和保健医療圏	39	34	-5	南奈良総合医療センター	16	13	-3
県外	7	11	+4	その他	29	34	+5
小計	148	175	+27	合計	148	175	+27
離陸後キャンセル	19	17	-2				
合計	163	192	+25				



※●は、公立へき地診療所

■ **応需率92.7%を確保**（前年度 92.0%） ※4月から8月まで  
南和地域管内救急搬送件数**2,103件** このうち南奈良HCに、**1,634件**の要請があり、**1,515件**を受入れ

■ **一日あたり搬送件数12.6件**（前年度12.7件）



**2,103件**  
(100.0%)

このうち要請

**1,634件**  
(77.7%)



$1,515 / 1,634 \div$  **応需率 92.7%**

※ 応需できなかった主な理由  
3次救急対象、救急センター  
混雑・緊急手術、ベッド満床

■ 救急患者について、公立へき地診療所での受診歴があれば、南奈良HCの医師は**患者到着までに診療所の電子カルテ情報を共有・閲覧して、最適な治療につなげている**

## 応需率の推移

(2024年度までは年度計)

年度	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025
応需率 (%)	-	91.7	93.3	91.2	91.0	88.5	88.7	89.4	91.1	92.7

## ※一日あたり搬送件数の推移

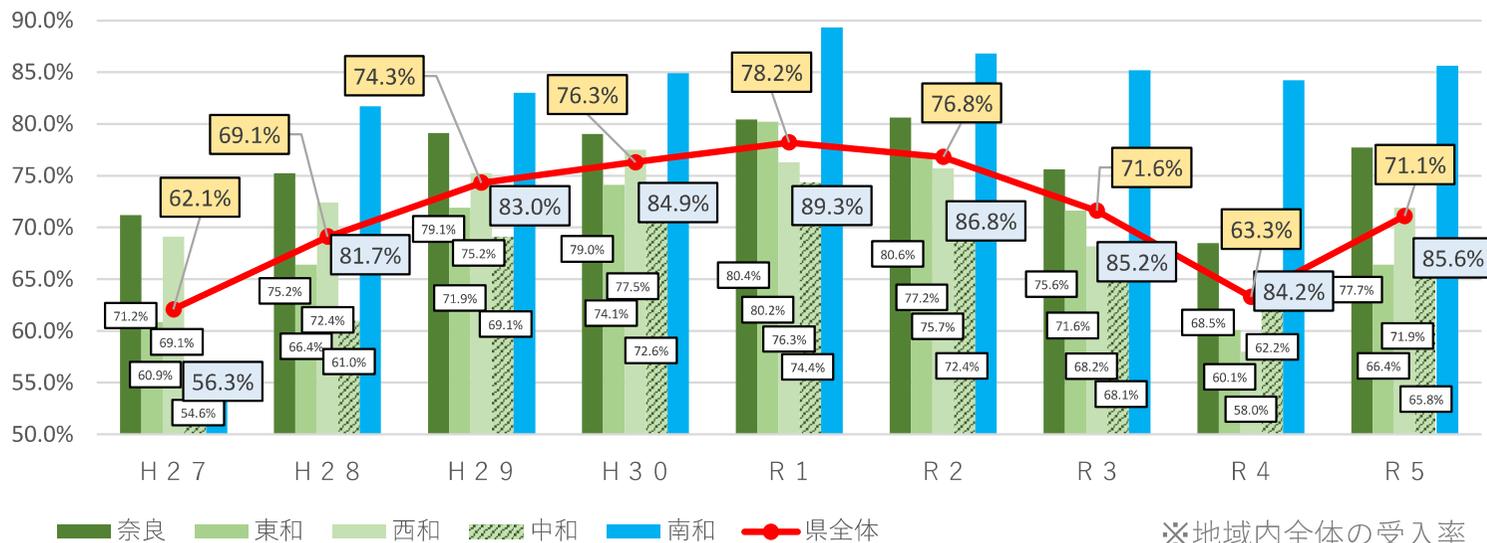
(2024年度までは年度計)

年度	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025
件数 (件)	11.2	10.1	10.1	9.6	8.5	9.4	10.6	11	12.6	12.6

R5年度まで

(参考) 県内の救急応需率の推移

〈出典〉：奈良県e-MATCHデータ



※地域内全体の受入率

# 令和 7 年度南和広域医療企業団病院事業会計補正予算案（第 1 号）について

## 「収益的収支」補正予算の概要

### 病院事業収益

補正予算額 375,000千円

※費用増額に係る財源については、入院収益増収で対応

款) 病院事業収益	375,000千円	
項) 医業収益	375,000千円	
目) 入院収益	………… 375,000千円	

### 病院事業費用

補正予算額 375,000千円

**【補正理由】**

- ① 令和6年人事院勧告（地域手当）対応のため
- ② 高額医薬品等の増加による対応のため

款) 病院事業費用	375,000千円	
項) 医業費用	375,000千円	
① 目) 給与費 (手当)	………… 75,000千円	
② 目) 材料費	………… 300,000千円	

# 南和広域医療企業団職員の給与の種類及び基準に関する条例の一部を改正する条例

## 1. 改正趣旨

国の人事院勧告により示された地域手当の支給割合に基づいて、各構成市町村が令和7年度より地域手当の見直しを行っていることをふまえ、当企業団においても所要の改正を行う。

### <参考>

国の人事院勧告による当地域の地域手当支給割合

- ・令和7年度 2%
- ・令和8年度 4%
- (令和6年度までは無支給地域)

### <参考>

#### ○各構成市町村の地域手当支給状況

- ・令和6年度までは、いずれの構成市町村も不支給
- ・令和7年度は地域手当2%(または4%)を支給

#### ○具体的な支給割合は、職員給与規程で定める。

- 医師・歯科医師 …… 16%
- 上記以外の職員 …… 2%

- 当企業団は、地方公営企業法の全部適用であるため、経営状況をふまえてR8年度以降の地域手当の支給割合を今後検討(支給割合の変更は規程改正により対応)

## 2. 改正概要

企業団の全職員に対して地域手当を支給するための所要の改正を行う。

## 3. 施行期日等

公布の日から施行し、令和7年4月1日より適用する。

# 南和広域医療企業団企業長等の給与及び旅費に関する条例の一部を改正する条例について

## 1. 改正趣旨

- ①国の特別職の給与改定に基づき、奈良県の「知事及び副知事の給与及び旅費に関する条例」が改正され、期末手当の支給割合が引き上げられた。企業団も県の対応に準じて特別職の期末手当の支給割合引き上げを行う。
- ②国における地域手当の見直しにより、構成市町村において令和7年4月より地域手当が支給開始されたため、当企業団の一般職と同様に特別職への地域手当の支給を行う。
- ③企業長の給料月額を改定を行う。

## 2. 改正概要

- ①**企業長及び副企業長の期末手当支給割合の改定**  
(第4条及び別表第1関係)  
官民格差の解消等のため、県の対応に準じて右表のとおり、企業長及び副企業長の期末手当支給割合の改定を行う。  
(年間支給月数0.05月引き上げ → 3月支給分を改定)
- ②**企業長及び副企業長の地域手当の支給**  
(第2条及び第4条関係)  
構成市町村の状況等を考慮し、一般職員と同様に地域手当を支給する。これに伴い、期末手当基礎額に地域手当を含めて算出するよう改正する。  
(支給割合は職員給与規程の改正で対応)
- ③**企業長の給料月額の改定(第3条関係)**  
企業長の給料月額は、企業団設立時(H28年度)に行政職9級再任用職員の額を参考とし、同額に定めている。  
右表のとおり、参考とした給料月額が官民格差の是正等により変更されていることから、今般、給料月額の改定を行う。  
(現行439,800円 → 448,000円)

### ◆期末手当支給割合(①)

#### < 改正前 >

令和7年度 期末手当支給割合(改正前)				
	6月	12月	3月	年間計
企業長	1.175	1.075	0.1	2.35
副企業長	1.7	1.6	0.1	3.40

#### < 令和7年度 >

令和7年度 期末手当支給割合(改正案)				
	6月	12月	3月	年間計
企業長	1.175	1.075	0.15	2.40
副企業長	1.7	1.6	0.15	3.45

#### < 令和8年度 >

令和8年度 期末手当支給割合(改正案)				
	6月	12月	3月	年間計
企業長	1.2	1.05	0.15	2.40
副企業長	1.725	1.575	0.15	3.45

#### < 参考 > 県特別職等賞与支給割合

	R6県人事委員会勧告前 (R6年度)			R6県人事委員会勧告後 (R7年度)		
	6月	12月	合計	6月	12月	合計
再任用特定幹部職員 (期末・勤勉合計)	1.175	1.175	2.35	1.2	1.2	2.40
副知事・教育長 常勤の委員	1.70	1.70	3.40	1.725	1.725	3.45

### ◆企業長給料月額(③)

年度	行政職(一) 再任用9級月額	
H26	438,700	(H28.4.1の企業団設立当初から改訂なし)
H27	439,800	現行の企業長給料月額
H28	440,600	800 ← 現行の給料月額との差額
H29	440,600	800 (以下 同じ)
H30	441,000	1,200
R1	441,000	1,200
R2	441,000	1,200
R3	441,000	1,200
R4	441,000	1,200
R5	442,400	2,600
R6	448,000	8,200

## 3. 施行期日

- (1)令和7年度分の期末手当改定については、公布の日から施行する。
- (2)令和8年度分の期末手当改定については、令和8年4月1日から施行する。
- (3)地域手当の支給は、令和7年4月1日より適用する。
- (4)企業長の給料月額の改定は、公布の日から施行する。

## 令和6年度 南和広域医療企業団 病院事業会計資金不足比率<sup>※</sup>の報告について

※「資金不足比率」とは、公営企業ごとの「資金の不足額」の「事業規模」に対する比率。

公営企業の資金不足を、公営企業の事業規模である料金収入の規模と比較して指標化し、経営状況の深刻度を示す。

地方公共団体の財政の健全化に関する法律第22条の定めによる、資金不足比率について下記のとおり報告いたします。

### 比率の概要

#### ①資金不足比率の算定

○地方公共団体の長は、毎年度公営企業ごとに資金不足比率を算定、監査委員の審査に付し、その意見を付けて議会に報告、公表

#### ②経営健全化基準(20%)以上となった場合

○経営健全化計画を議会の議決を経て作成、毎年度、経営健全化の実施状況を議会に報告し公表

### 算定式

(単位:千円)

項目	
1. 流動負債 (① - ②)	1,528,742
① 流動負債	1,940,372
② 控除企業債	411,630
2. 令和6年度同意等債で未借入または未発行の額	0
3. 建設改良費等以外の経費に対する地方債の現在高	0
4. 流動資産	4,264,305
5. 令和7年度に繰り越される支出の財源充当額	0
6. 医業収益(事業規模)	9,406,315
資金不足額 (1-2)+3-(4-5)	△ 2,735,563
資金不足比率 [(1-2)+3-(4-5)] / 6 × 100	—

※ 資金不足比率なしのため、「—」と表記

### 算定結果

令和6年度決算に基づき、南和広域医療企業団病院事業の資金不足の算定を行ったところ、下記のとおり資金不足が生じていないため、資金不足比率の該当はなし。

事業名	資金不足比率	備考
病院事業	—	資金不足なし